

第3回（仮称）札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議議事録

日時：令和4年7月14日（木）10：00～12：00

場所：札幌市建設局みどりの推進部 大会議室

委員：石橋委員、逢坂委員、柿澤委員、佐々木委員、庄子委員、平田委員、蔵中委員（構成外委員）

札幌市（事務局）：鈴木みどりの管理担当部長、上田自然緑地係長

=資料7の説明=

【上田係長】事前に送付していない資料として、資料7（清田高校の授業における学生の意見について）がある。よい意見が多かったのでご紹介させていただきたい。

第1回・第2回の会議で平田委員からご意見をいただいたものが形になったもので、昨日竹中工務店さんと平田委員とのコラボで授業が行われた。授業では森林の大切さ等のお話があり、最後に学生さんと意見交換をする機会があった。意見交換では、札幌市が森林基本方針を策定することを前提に、「100年先を見据えてどういうことをしたらよいのか？」という問いかけをした。

“これまで持っていたイメージ”は、第2回有識者会議での委員の皆さんからのご意見のとおりで「木を伐ること自体は環境に悪い」という意見が多かった。

“木材利用促進のアイデア”では、「愛着のわく身近なものに活用するとよい」や「塗装していると木材がよく分からない」という意見があり、言われてみれば当たり前のことかもしれないが改めて気づかされた。

“普及啓発のアイデア”もいただき、その中でも特に気になったのは「中学生の時に宿泊学習で植樹したことが思い出に残っている。『体験』を思い出に残りやすい行事の中で実施するとよいのではないか」という話で、例えば白旗山の体験メニューの受入体制を整える上での参考になると思う。

意見をどのように反映するかについて（今後の参考にするのか、方針の文言に加えるのかを）次回ご提案させていただきたい。

=資料2（上段）全体構成について説明=

【上田係長】全体構成については、基本編・取組編・市町村の森林整備計画で構成している。今回は取組編のうち具体的な内容が記載される第4章について、第2回の個別伺いに引き続き議論をさせていただきたい。これ以外の部分については第4回有識者会議で総合的に議論をしていく予定。

＝第4章 4－1 森林の多面的機能の発揮と持続可能な経営管理＝

【上田係長】（資料の説明）

【柿澤委員】白旗山都市環境林は30年先進的な取組をされてきたと思うが、それに対する評価はしているか。新しいこと（針広混交林化）、知見がそれほどないことを進めていく上で、この30年実際やってみてどうだったのかを踏まえながら、意図したような結果になってきているのかを長期的に見ていく必要があると思う。そういう面でも、白旗山の評価など、ある程度踏まえながら考えた方がよいのではないかと思った。とりあえず今の時点でモニタリングみたいなことや当初目標としたものに対してこのような施業を行い、今このようになったというような評価はできているか。

【上田係長】昭和50年代から針広混交林化に舵を切った白旗山だが、施業ボリュームが非常に少なかったのでおおむね間伐遅れになっている状態。正確な評価はしていないので、今ご指摘のあったことは改めて評価したい。昨年度に林相判読も含めて調査しており、今は石狩森林管理署の助けを借りてドローンを飛ばす等して現地調査を行っているところなので、まとめられると思う。次回の有識者会議で評価を提示していきたい。我々担当職員の感覚としては、意外に針広混交林化は進んでいないという実感がある。鬱蒼としている状態。ただ鬱蒼としていながらも、一方で広葉樹は生えてきている。矛盾した言い方だが、施業している割には効果が出ていない、でも広葉樹が生えてきているという感覚。針広混交林化を進めていく上で、30年間やってきた結果は確かに必要なもので改めて見ていきたいと思う。

【石橋委員】資料1ページについて。文章の語句のことで、「目標林形」とあるが、この場合は「型」を使う。木を「切る」も「伐る」にすべて統一した方がよい。施業の中身で言うと針広混交林化、例えば白旗山は「広葉樹が入ってきているようだ」とあるが、確かに30年間を見れば最初の方は入ってきたと思う。今はシカが多く、我々のところ（森林総合研究所：白旗山の裏側）も植えたり地がきをしても全部食べられてしまう状況なので、そこがなかなか難しいことを皆さんにご認識いただいた方がよいと思う。

資料2ページ②二次林等整備について。二次林というのは一般的には森林の遷移でいうと放っておいてもそれなりの形になっていくということなので、例えば地域住民に開放やレクリエーションとなるとそれなりの施業方法がでてくると思うが、積極的に手を入れなくてもよい部分ではあると思う。施業例のところにササ刈りという表現があるが、これはササ刈りだけでは無理かと感じる。例えば「ササの処理」や「ササの除去・地がき」等色々な方法があるので、そういう広めの表現にした方がよいと思った。

【上田係長】ご指摘のとおりだと思うので修正する。

【逢坂委員】間伐遅れという表現について。4－1は間伐遅れという言葉がかなりでてくるが、「現状」のところで「利用期を迎えている」という言葉がある。私のイメージで

は間伐は“育てるために周りのその木の成長を阻害する木を伐る”という意味合い。
現状のところ今「人工林の75%が50年生以上で利用期を迎えている」とあるが、この部分を「多くが間伐未実施のまま利用期を迎えている」という風にした方がよいと思った。

同様に施策の方向性の一番上にも「間伐遅れの状態が多いこと」とあるが、この部分がなくても色々な面で森林整備を進めることができるので、取ってしまってもよいと思う。

同じような形で、2ページ④で「間伐材をできるかぎり搬出」とあるが「伐採木はできるだけ」というようにして、間伐材にこだわらなくてもよいのではないか。

【上田係長】すべてご指摘のとおりだと思うので、そのように修正したい。

【柿澤委員】木材生産に関しては最近色々な市町村でルールづくりをしている。どういう場所を木材生産の場所にしてゾーニングするかというような方針を立てているところもある。札幌市はそこまですぐには必要ないと思うが、将来的にもし人工林整備で主伐が進みそうな場合には、そのようなことも考えておいた方がよい。

【上田係長】それは例えば、こういった所ではどんどん木材生産をするが、こういった所は保全する等を決めるということか？

【柿澤委員】路網と傾斜あるところと河畔林を除くとか、こういう所に木材生産を集中させる、あるいは木材生産しないようにするというようなルールがある。すぐにそこまでやる必要はない気がするが、頭に置いておいた方が先々のためによい。

【上田係長】それは私有林整備に対し推奨するものを示すために？

【柿澤委員】そのために、市町村森林整備計画に書き込むか、あるいはその付属のルールのような形でガイドラインの形にするとよい。

＝第4章 4-2 担い手育成・確保とスマート林業の取組＝

【上田係長】(資料の説明)

【柿澤委員】構成に関わることだが、今後の取組(5)「市の体制の強化と職員の技術力向上」は、「4-2 担い手育成」とは違うのかなと思う。むしろ“全体の取組をどうやって動かしていくか?”というようなことに関わるように思われる。例えば「4-6 連携」で、北海道森林管理局・北海道・周辺市町村・大学・研究所との連携があるが、むしろそれらと森林組合を合わせて、“基本方針を進めていくための体制・整備”みたいな形でまとめられるかもしれないと思った。

【上田係長】方針の実現のために必要な要素をまとめた方が、より「推進が必要」という意味にも繋がると今お話を伺って感じた。この部分に関しては、第4回有識者会議に向けて、どうするのか考えていきたい。

=第4章 4-3 道産木材利用の推進=

【上田係長】(資料の説明)

【佐々木委員】「課題」の表現について。「丸太」「木材」「素材」という表現があるが、言葉の定義を整理しておかないと、どれをイメージしてどの段階のものを「木材」と言っているのか、混同して上手く伝わらないかもしれない。製材されてから材料として使えるものが「木材」、それまでは「素材」や「丸太」・「原木」と色々あるが、需給の中で出てくるのが丸太で輸出されるものもあれば、製材されてから出ていくものもある。その辺を把握して整理した方がよいかもしれない。

【上田係長】修正していきたい。

【平田委員】今後の取組(2)について。高層建築物等の補助金制度の後ろに「等」を入れておけば、補助金以外も色々制度を広げられると思った。

【上田係長】修正したい。

ある事業者からの聞き取りの中で、高層建築物における補助金というかなりの額を補助しないと誘導できないのではないかと、という話があった。補助金には森林環境譲与税を活用するのが基本だとすれば、森林環境譲与税では手に負えない額になりそうな場合、補助金制度と違うことも考えなければならないと思う。

【石橋委員】「札幌市産材」とあるが、これはどういうイメージか？例えば市有林から出ているのか私有林から出ているのか。市産材というと国有林が定山溪等にあるので、そこから伐って出すものも市産材になる。もしイメージを市有林や私有林にしているのであれば、書き方を考えた方がよいかもしれない。

国有林も含めて札幌市から出るものを積極的に使っていくという、もう少し大きな考えがあるのであれば、それでもよいかもしれないので整理しておいた方がよいと思う。

【上田係長】札幌市域の中で、というイメージはあったが国有林の視点はなかった。

札幌市産材は利用促進や普及啓発に繋がるので、場合によっては把握しやすいところ(市有林私有林)に限定した捉え方でもあるかもしれないし、全体で連携してやっていくという方法もあるので、この辺りは整理したい。

【石橋委員】国有林も巻き込んでやってもよいような気もする。札幌市の木ということで、定山溪や周辺から出てくるものを“札幌市産材”とし、そのロゴを作り石狩森林管理署と連携するのも面白いと思う。そうすると札幌市域から出てきた木材ということで量も多くなり、札幌市の中の建物や公共建築物等、色々なところへ使えるようになる。今回の趣旨から外れるかもしれないが、そういう意識があってもよいかなという気がした。

【上田係長】ご指摘のとおりだと思う。市有林は狭いし、私有林は活発に営林を継続しているところはない状態なので国有林の出す材が主力になるかもしれない。その辺りを整理して考えていきたい。

=第4章 4-4 普及啓発=

【上田係長】(資料の説明)

【柿澤委員】本来は森林に関する構想を作ると、普及啓発はどちらかというところ今後の取組(1)が中心で書かれる場合が一般的だと思う。ここの取組の書きぶりが木材生産・木材活用に偏ってしまっているような気がしている。一つのやり方としては木材に関する普及啓発は木材利用とセットで書いた方が、木材活用に関して、より市民の理解を深めるといふことでまとめるのはどうか。

今後の取組(1)については「普及啓発と協働の森づくり」みたいな形で、「4-6 連携」の森林ボランティア支援や企業 CSR 活動の取組を入れて、普及啓発をしながら皆と一緒に森のことを知ってもらい市民の人達で森づくりに取り組んでもらう、というようなまとまりにすることができかなと思った。

【上田係長】最初の木材利用の方に重きを置いた感じの記載だというのは、確かにご指摘のとおりだと思う。もう少し、森林に関する普及啓発に加えた方がよい要素はあるか？そうではなく、森づくり、森林整備を含めてやっていくというもう少し具体的なものが見えるようならよいか。

【柿澤委員】森林のことに関心をできるだけ持ってもらい、その中の一つとして森林からの資源を有効に活用した木材生産があるので、ここに含めてもよいと思う。森林に関してよりよく知ってもらい、実際に森林ボランティアや企業 CSR も含めて体験をしてもらって、できるだけ多くの人々が自ら森林に関心をもちながら森づくりの体験をしてもらい森林の理解を含める、森林管理の応援をしてもらう、あるいは木材の活用を応援してもらおうというようなストーリーも作れるかと思う。

【上田係長】おっしゃるとおりで今の記載だと森林を見て普及啓発としか書いていないが、ボランティアが企画するイベント等もあるので、そうしたイベント等への参加を通じたものも普及啓発効果が高いと感じた。構成にも関わる部分なので、先ほどのご指摘も含めて全体を見直していきたい。

【庄子委員】課題の一つ目の「木を伐ることは悪いこと」について。こういう会議等では、伐採や間伐が進んでいない状況把握があるので「整備が進んでいないから木を伐ることは悪いことではない」という理解ができるが、おそらく一般の方にはそこまで理解が進んでいない。木を伐ってはいけないところ(緑地や街路樹など)では伐らないほうがよいと思うので、一般市民に向けて出す時にはもう少し丁寧な説明が必要。森林整備が進んでいないところに関しては、積極的に手をかけていった方がよいというようなニュアンスがうまく伝わるような形に書く方がよいと思う。

【蔵中委員】例えば「木を伐ることはすべて悪いこと」にすれば、今のニュアンスは通じるのではないか。

【石橋委員】「すべて」を入れるのはすごくよいご提案だと思う。

【上田係長】 そういった背景の部分を理解するのが、この仕事に携わっていなければ非常に難しい。確実な理解を促すためにも、もう少し丁寧に説明を入れていくようにしたい。おそらく市民にとっては「きる」は全て「切る」という漢字なので、悪いことという印象なのかと思う。「伐る」だと目的があるので、そんなに悪いことではないと伝わるかもしれない。

【平田委員】 (1)森林整備の重要性について。この書きぶりだと白旗山都市環境林だけを利用するようにも見える。例えば国有林でも整備して見せられる場もあるし、白旗山のほか実際に森林整備が進んでいるところも含めて利活用できる、というように広く書いておくとうい。活動の場も白旗山都市環境林をすぐ見せる段階に持って行けないと思うので、それまでの間には他のボランティアがやっている所を見せる等、札幌市だけで頑張ろうとはせずに、一言入れておくのがよいと思う。

【上田係長】 おっしゃるように白旗山だけに見えてしまうし、すぐには目的が達成される状況にはならない。他の森林の中ですぐに見せられるところもあると思うので、示せばよいと思う。その辺りを考えて記載の修正をしたい。

【佐々木委員】 4-3の「市産材」は、「道産材」の中の「市産材」というイメージ？道産材の普及啓発が市産材の利用にも繋がる、という辺りも書くのか。「市産材」の話から急に4-4で道産材に話がいったしまったようにも見えてしまう。

【上田係長】 我々の思いとしては、普及啓発をしてどんどん使って欲しいのは道産木材という単位。市産材だけで何かができる量ではないので、道産木材を普及啓発、利用促進するために市産材というワードも使ってやっていこうというイメージ。確かにその辺の関係性は見えないし、札幌市推奨は市産材なのか道産木材なのかというところも見えづらいので、整理をしていきたい。

＝第4章 4－5 森林を活用したウェルネス（健康）の推進＝

【上田係長】（資料の説明）

【庄子委員】 今後の取組(3)について。「存続する前提とする」と書いてあるが、下の4つの✓にあてはまると完全に存続することになってしまう。その辺りは、はっきりとした記載でよいのか？市としてはやめたいが、どこかに当てはまってしまうとやめられなくなってしまう可能性があるのではないか？

【上田係長】 実際に進めるときは、詳細な検討もしながら、土地をお借りしている所有者との話を進めながら決定していく。今の書き方だとかなり確定されたような書きぶりになっているので、その辺は具体的な検討をする中で支障とならないような記載にしていきたい。ニュアンスとしては何でもかんでも残すわけではなく、市民にとって利用しやすい利用価値のあるところだけを残したいという意図なので、読み取れるようにしたい。

=第4章 4-6 連携=

【上田係長】(資料の説明)

【柿澤委員】森林ボランティア支援について。新規参加者を確保できているところとそうでないところがある。市としてそこまで手が回るか分からないが、市民の中から参加したい人を育成してボランティアの人達とマッチングさせる、あるいはボランティア団体で経験を持っているところが、新規参加者を育成してボランティア活動に入ってもらえるような、新しく市民の人達が活動に入ってくれるきっかけづくりをボランティア団体と一緒にできればよいと思うのが一つ。

もう一つは森林ボランティア団体だけではなく、木育や森林環境教育に関わっている団体の方々が結構いると思う。ウェルネスや木材の有効活用にも関係してくる部分だと思うので、そういう団体との連携や協力を考えてもよいのではないか。

【上田係長】1点目で、参加したい方が入れるように、また育成できるようにという部分はごもっとも。札幌市でも、ボランティアに参加したい方に対して団体を紹介する制度もあり実際に運用している。今後も継続していくと思うので記載したいと思う。

また、育成の部分に関しては、公園のボランティアと違い森林のボランティアは技術が必要な面や安全性の確保もあるので、確認して記載を進めていきたい。

2点目については、木育や森林環境教育を進めている団体や企業もあるので、札幌市だけでやるのではなく連携して協力すべきところはあるかと思う。そういった視点があることを示すのも大事だと思うので、記載の方も検討していきたい。

【逢坂委員】今後の取組(4)森林ボランティア支援について。「森林・山村多面的機能発揮対策支援事業による支援を継続」と限定しているが、この事業に限定せずに「こういった事業による支援等をとおして」というように幅広にした方が新しく立ち上がった事業にも対応するのではないかと思う。

【上田係長】修正したい。

【平田委員】先ほどの4-4の普及啓発に関わるが、「裾野を広げる」という記載がどこにもないのが気になった。森林ボランティア支援で「新規参入者を広げる方向で」と柿澤委員が話していたが、やる気がある人ではなく森林に興味がない人達に対して、まず森林に興味を持ってもらうことに対して働きかけますよ、という記載が普及啓発にも連携にもないのが気になっている。例えば、今活動している新規環境教育をやっている方や木育の人達をサポートするのもよいし、学校教育の現場ともう少し綿密に関わり合っすべての人達に情報発信する、という記載で普及啓発の方に入れるか連携の方に入れるか。それと、連携の方にも普及啓発という言葉が出てきている。普及啓発は大切だと思うので、そこを章立てするのであれば連携のところとは別にきちんと整えた方がよいかと思う。

【上田係長】市民の方にどんどん関わってもらうことについて、記載を検討したい。

冒頭で述べた昨日の清田高校の授業のような活動を重ねれば、深く考えてくれる市民の方もより増えていくかと思う。知ってもらうことも、深く考えてもらうことも両方推進してできるように記載すべきだと思った。章立ての話でご指摘いただいたことも改めて考えていきたいと思う。

=第4章 4-7 白旗山都市環境林の拠点機能強化=

【上田係長】(資料の説明)

【柿澤委員】実際に進める上では市と森林組合との連携を考えて進めるようなイメージか？ふれあい友の会などの組織など、実際に市民の方達が色々関わっている中で、そういった人達との関わり合いについてはどのように考えているのか？

【上田係長】1点目について、白旗山都市環境林は長らく森林組合によって維持管理や間伐等を進めていただいた。今後についても森林組合のご協力なしには進めていけないと思う一方で、広い面積の森林整備を一層進めるためには森林組合だけでは難しいと思っている。森林組合のみならず色々な方の協力で進めていくことになると思う。

2点目について、友の会のような団体も含めた色々な活動も、おそらくこの方針に沿って白旗山が変わっていけば、また色々形が変わっていくかと思っている。ボランティア団体に近いところもあると思うが、必要な支援や連携等を含めてやっていくと思う。

【庄子委員】右下の「薪利用」の写真について。これに関わる記述がなさそうなので、入れるか、写真を取るかどうかにかした方がよい。

【上田係長】写真に関しては全体的に見直していきたい。

【上田係長】第2回の有識者会議(個別伺い)では、白旗山に関して、白旗山産材に関することや、自分達で製材・乾燥をすることも含め色々な可能性が広がるご意見をいただくことができた。ご意見のうち方針に反映していないところも、例えば資料4意見対応表において「今後の参考にさせていただく」旨を記載した部分などは、本方針の次に策定していく「(仮称)白旗山都市環境林利活用計画」の中で、それを基に細かな検討をしていきたいと思う。

【佐々木委員】今後の取組(4)について。「清田区内の小学校や町内会」とあるが、清田区に限定しているのか？

【上田係長】清田区以外を受け付けないという意図ではないが、清田区ではキャラクターきよっち(白旗山に住んでいる森の妖精)を含めてシンボリックに扱われているところもあり、区としての山という面を出したい思いがあった。この記載については検討する。

【平田委員】何となくのイメージだが、今後森林組合に新しい人が入って来てくれるといいなという思いがある。ここをぜひフィールド提供の場にして、札幌市でも林業ができることを広く学生に知ってもらう。そうすると森林組合にも入ってきやすいと思う。

方針の中に入れるかどうかは別として、そういう使い方をするのがよいのではないか。札幌市は林業のイメージがないので、林業事業体に PR していくのも特に担い手確保の意味ではよいと思う。

【上田係長】森林組合をはじめ自伐型林業の方も含めて、今、多様な担い手に札幌市の森林整備は支えられている。白旗山は、そのいずれの方も入って来られるフィールドなのかなと思う。そういったところも含めて若い人達に、林業の仕事の中でも職業選択が見えると担い手確保にも繋がるかもしれない。

=全体=

【柿澤委員】実行管理に関するような記載があってもよいのではないか。基本方針をどう進めていくのかの記載。札幌市の体制を強化したうえで色々な自治体と連携をして進めていく、あるいはここに書かれている様々な主体に期間の途中に評価や議論をしてもらう、意見をいただくような機会を設けるなど、この先 10 年間動かしていくための簡単な記載があってもよいかと思う。

【上田係長】資料 4 の第 2 回有識者会議の意見対応表の中にも記載しているが、速度感を示してはどうかというご意見もあったが、今は何をどこまでやるというのが全く見通せない状態なので、あくまでも方向性を示した「方針」という形にしている。ただ、今のご指摘の、「どういう風に動力を得て進めていくのか」は速度感とはまた別の話だと思う。「効果的・効率的に進める視点」、あるいは進める「動力を増やすための視点」などは重要だと思うのでその辺りも整理していきたい。

【庄子委員】資料 4 意見対応表 1 ページのヒグマ対策について。スケジュールを見ると最後はパブリックコメントになると思うが、このままでは色々な意見が来てしまい、收拾がつかなくなる気もする。第 4 章でも 4 ページにエゾシカの記載があるが、一般市民からすると「何故エゾシカだけ書いてヒグマは書かないのか」という形で見られかねない。おそらくどこかには緑の審議会や、環境局がやられているヒグマ基本計画の改正を経ての話にはなるとは思うが、現状をお聞かせいただきたい。

【上田係長】ヒグマや生物多様性を含めたご意見については、意見対応表では「関係部局や有識者と協議し、報告いたします」と記載をしている。ヒグマ基本計画の見直しや生物多様性の考えとの兼ね合いもあることから、今後そういった計画との連携や有識者との話をしていき、可能な限りこういった要素を方針に盛り込んでいければ。一方で、ヒグマや生物多様性の議論は難しい部分もあるので、この基本方針の策定がそれより前になってしまう可能性もある。場合によってはそういった部分の記載は今回書ききれない可能性もある。この辺りは第 4 回有識者会議で細かくお話したい。8 月の緑の審議会でも扱っていききたいと思う。

【佐々木委員】4-1の1ページの目標林型の絵は、案なのか？これだと伝わらない。

【上田係長】今は暫定的な絵を使っているが、最終的には発注してしっかり伝わる絵をプロの業者にお願いする予定。

= 「(仮) 札幌市森林基本方針」の名称について =

【上田係長】名称についてご意見を伺いたい。我々の中で「基本方針」の部分はこのままで考えているが、果たして「森林」という冠でよいのかと議論をしていた。「森林」と書くと木材が見えてこない。一方で「林業」にすると、実際そこまで深い内容までは進んでいないとも感じる。「森林・林業」とするか？「森づくり」もよいが、妥当なのかどうか迷っている。そろそろ仮称を取りたいと思うので、最終的には札幌市が決めなければならないが、ご意見があれば伺いたい。今のところ札幌市としては「森林基本方針」か「森づくり基本方針」が案としてある。「林業」は入れづらいかなと。

【蔵中構成外委員】「森林活用」「森林利用」という言い方もあるのかなと思った。

【平田委員】若い人にも伝えるのであれば「森林（もり）づくり」が響きとして全部網羅している気がする。林野庁も「森林（もり）づくり」をよく使っている。

【佐々木委員】まちづくりのように平仮名で表記しては。

【庄子委員】「森林基本方針」だと生態学的な重みがある。例えば他の分野で「海洋基本方針」が出されたら、きっと海の生態系的なものが書かれているのかなと思い浮かべることを考えると、「森林基本方針」と書くとそのように見られるかなという気もする。そういう意味では記載内容に森づくりや林業のことも少し入っているという意味では、「森林基本方針」だと大きすぎるかなという気持ちがある。

【上田係長】おっしゃるとおりだと思う。

【柿澤委員】「つくる」「活動」という言葉が入ると、言葉自体もやわらかくなるし、これから何かするというのも伝わるのではないか。

【平田委員】「未来の森基本方針」もよい。

【上田係長】100年後の将来像というのは札幌市のあらゆる施策の方針でもなかなかないので、未来を出してもよいかなと思う。

いただいたご意見を基に札幌市の内部で話して、名称を決めていきたいと思う。

= 資料2 (下段) 今後のスケジュールについて説明 =

【上田係長】本日第3回有識者会議を実施。8月30日には緑の審議会が予定されている。そこでは本日までの議論を基に全体の報告をしつつ、基本編（市民の方に分かりやすい基礎知識）を見ていただこうと思う。本日の議論によって修正したものは委員の皆様より先に披露する形になる。また、生物多様性等の話も、それまでに確認や検討ができる範囲で話もしたいと思っている。今日お話していないような中身も含めて、緑の審

議会の方で説明することをご了承いただければと思う。

その他、第1回の追加調査でご意見をいただいた市民アンケート、行政機関内の協議として市内部含め石狩振興局・北海道森林管理局・石狩森林管理署等への協議や意見照会を、このタイミングで進めていければと思っている。市民アンケートは申し訳ないが時間の関係上、できないかもしれないが、場合によっては先日の清田高校聞き取り等も含めて、そういったところから掘んでいくかもしれない。

第4回有識者会議は10月頃に実施する予定で、そこでは全体構成、第3章の将来像の話、未検討事項など、緑の審議会や各行政機関との協議結果も踏まえて、また議論をさせていただければと思う。予定では第4回有識者会議を有識者会議の最後と考えており、その後は札幌市の内部調整、パブリックコメントとなる。森林に関する施策を札幌市内部で議論するのは初めてなので、市の中でも色々な意見が出て大幅に変わる可能性がある。その辺りもご了承いただければと思っている。